

JAPAN GOLF ASSOCIATION

# JGAGolf Journal



スポーツ振興くじ助成事業

**JGA** 公益財団法人  
日本ゴルフ協会



# 2023年 ゴルフ規則 主要改訂箇所の解説

2023年1月1日から2023年ゴルフ規則が施行されます。2019年の大改訂以降初となる、今回の改訂規則ではゴルフ規則のプレーヤーズ版を廃止し、ゴルフ規則アプリを活用することが推奨されています。これは、環境問題に対する活動を支援するために紙ベースの書籍の発行部数を減らすこと、そして近代化に対応するために規則に関する情報をオンライン化することを目的としています。一方でゴルフ規則書とゴルフ規則のオフィシャルガイドはゴルフクラブ、ゴルフ競技の運営者、レフェリーのためにこれまでと同様に書籍として発刊されます。

2023年規則では、これまでオンラインやオフィシャルガイドにより規則を補足的に説明していた「詳説」や「解釈」を規則の規定の中に組み入れています。また、規定の明確化や文言の修正も引き続き行われました。細かい修正を含めると今回の改訂は多岐にわたりますが、ここではプレーヤーがコース上で頻繁に使用する規則やレフェリー、競技運営者が知っておくべき規則に関する改訂を解説いたします。

※文中の「一般の罰」はマッチプレーではホールの負け、ストロークプレーでは2罰打を意味します。

## 1 複数の違反に対する罰 (規則 1.3c)

複数の違反をした場合、複数の罰を受けるのか、あるいは1つの罰を受けるのかについての規定が簡単になり、複数の違反の間に介入する出来事があったかどうかで決定することになりました。介入する出来事とは①ストロークを完了した、または②違反に気づいたことを意味します。

### 事例 1

ストロークプレーで、バンカー内の球をプレーする前に練習スイングをしたときにクラブヘッドが砂に触れてしまいました(2罰打)。その後で、球をストロークしましたが、その球をバンカーから出すことができませんでした。そしてまた練習スイングをしたらクラブヘッドが砂に触れてしまいました(2罰打)。この場合、介入する出来事(ストロークを完了した)があったので、罰は別々に課せられ、プレーヤーは4罰打を受けることになります。

### 事例 2

ストロークプレーで、バンカー内の球をプレーする前に練習スイングをしたときにクラブヘッドが砂に触れてしまいました(2罰打)。その後で、再び練習スイングをしたらクラブヘッドがまた砂に触れてしまいました(2罰打)。この場合、介入する出来事はなかったため、1つの罰だけが課せられ、プレーヤーは2罰打を受けることになります。



## 2 スコアカードに記入される ハンディキャップに対する責任 (規則 3.3b)

2023年規則ではハンディキャップ競技でスコアカードに記入するハンディキャップが正しいかどうかの責任はプレーヤーではなく、委員会にあります。委員会は提出されたスコアカードにその競技に適用する正しいハンディキャップが記入されているかを確認し、そのハンディキャップを使用してネットスコアを算出する責任があります。プレーヤーがスコアカードにハンディキャップを記入していなかったり、間違ったハンディキャップを記入していたとしても、プレーヤーに罰はありません。スコアカードのハンディキャップが間違っていたプレーヤーが競技で優勝した場合、ハンディキャップについての責任は委員会にあるので、成績を訂正しなければならず、これは運営上の誤りなので訂正をするための時限はありません。

## 3 損傷したクラブの取り替え (規則 4.1a)

ラウンド中やプレーの中断中に損傷したクラブは、クラブを乱暴に扱った結果、損傷したものでなければ、修理したり、取り替えることができます。2019年規則ではローカルルールの制定なしには取り替えることを認めていませんでした。

## 4 グリーンリーディング資料の使用 (規則 4.3a)

2019年規則ではグリーンリーディングの使用の制限(サイズと縮尺)はパッティンググリーン上で行われるストロークと、パッティンググリーン外からパッティンググリーンにバターでプレーする場合に適用されていましたが、2023年規則ではパッティンググリーン上で行われるストロークに対してのみ制限されます。

## 5 取り替えた球の違反(規則 6.3b)

規則で認められていないのに球を取り替えてプレーした場合の罰が一般の罰から1罰打に軽減されます。

### 事例

パッティンググリーン上で球をマークして拾い上げた後、誤って別の球をリプレースしてプレーしてしまった場合、プレーヤーは1罰打を受け、その球でプレーを続けなければなりません。

## 6 救済を受けた後に自然によって動かされた球(規則 9.3)

救済を受けてドロップ、リプレース、プレースした球が止まった状態から自然によって動かされた場合、2019年規則では新しい位置からプレーしていましたが、2023年規則では、その球が他のコースエリアに止まった、またはアウトオブバウンズに止まった場合は罰なしにリプレースしなければなりません。この規則の改訂は傾斜地で処置をしなければならないプレーヤーを助けることになるでしょう。

### 事例

レッドペナルティーエリア(池)に入った球に対してラテラル救済を受けるため、そのペナルティーエリアの外の急斜面に球をドロップしましたが、救済エリア内に止まらないので再ドロップをしましたが救済エリアに止まらず、その後、規則に基づいてプレースをしてようやく球は救済エリア内に止まりました。その後でその球が風や重力によって自然に動き出し、そのペナルティーエリア(池)の中に入ってしまった場合、罰なしにその球を元の箇所に戻さなければなりません。



## 7 プレーの線を示すために物を置くことの禁止(規則 10.2b)

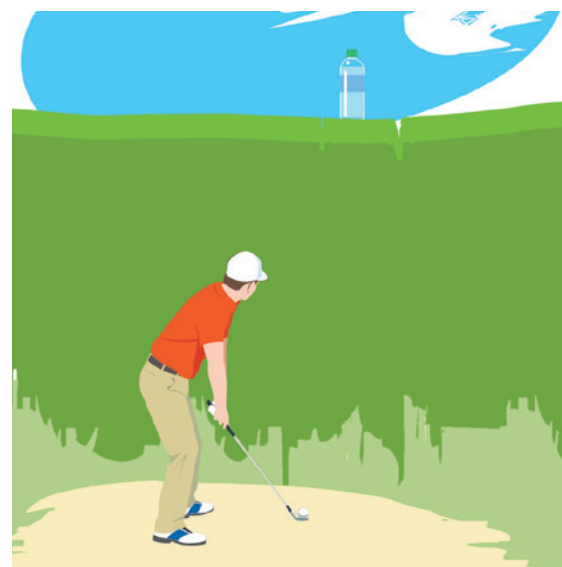
2019年規則では、パッティンググリーン上に限り、プレーの線を示すために物を置くことを禁止していました。2023年規則ではこの物を置くことの禁止はすべてのコースエリアに適用されます。

この違反の罰は一般の罰で、ストロークを行う前にその物を取り除いても罰を免れることはできません。

なお、ホールやペナルティーエリアの場所など公開されている情報を示すためにストロークを行う前に人を立たせることはこれまで通り違反とはなりません。ただし、ストロークをする前にその人を移動させなければなりません。

### 事例

崖下から球をプレーするのにプレーをしていく方向が分からないので、狙いを定めるためにキャディにペットボトルを置いてもらいました。この場合、プレーヤーは一般の罰を受けます。



## 8 再プレーを要求されるのにしなかった場合

2023年規則では、規則が再プレーを要求しているのに再プレーをしなかった場合、誤所からのプレーとはならず、2罰打を加え(マッチプレーではそのホールの負けとなる)、その球でプレーを続けなければなりません。

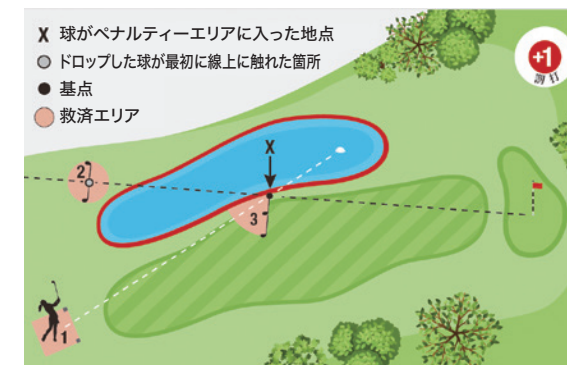
### 事例

ストロークプレーで、プレーした球が送電線に当たった場合は再プレーをしなければならないローカルルールを採用していました。ストロークした球が送電線に当たったのに、再プレーをせずに、その球でプレーを続けた場合、プレーヤーは2罰打を受けます。

## 9 後方線上の救済

ペナルティーエリアの救済やアンプレヤブルの救済の選択肢として使用される後方線上の救済の救済エリアが変更となりました。

2023年規則では、球を基準線上にドロップし、球がその線上に落ちた箇所からどの方向にも1クラブレングスの範囲が救済エリアとなります。つまり、ドロップした球がホールに近づいて転がっても1クラブレングス以内に止まっていれば、再ドロップをはいけません。



2023年ゴルフ規則書と2023年ゴルフ規則のオフィシャルガイドの購入はこちら



R&Aゴルフ規則アプリのダウンロードはこちら



## 10 検索時間内に見つけた球の確認(規則 18.2a)

2019年規則では球が検索時間内に見つければ、その見つかった球が自分の球であるかどうかを確認するための合理的な時間が認められていました。2023年規則ではこの合理的な時間を詳説18.2a(1)/3で明確にし、プレーヤーは見つかった球を確認するために1分間の時間が認められます。

### 事例 1

プレーヤーは球を捜し始めてから2分30秒で球を見つけたが、その球が自分のものであることをすぐには確認することができませんでした。この場合、そのプレーヤーにはその球を確認するために1分の時間を認めることが合理的であり、つまりプレーヤーは球を捜し始めてから3分30秒以内でその球を確認することができれば、その球は紛失とはなりません。

### 事例 2

球が3分の検索時間ぎりぎりに見つかりましたが、プレーヤーがその球が見つかった場所に行かない場合、規則18.2a(1)はプレーヤーがその球がある場所に行くための合理的な時間を認めているので、そこに到着してから、プレーヤーがその球を確認するために1分以内の時間が認められます。

## 11 障がいを持つプレーヤーのための規則の修正(規則 25)

障がいを持つプレーヤーのための規則の修正に関する規則がプレーの規則の25条として新設されました。このことはゴルフ規則がすべてのゴルファーを対象としていることを意味しており、この25条は他の規則と同様にすべての競技に適用されます。規則では障がいのカテゴリーを規定し、各カテゴリーのための規則の修正を規定しています。



# SDGs達成を目指す 六甲国際ゴルフ倶楽部の取り組み

持続可能なよりよい世界を目指すための目標、SDGsへの取り組みが地球規模で広がっている。ゴルフ業界においても豊かな未来を創るために重要な目標である。兵庫県の六甲国際ゴルフ倶楽部はバイオマスボイラーや太陽光発電の導入など、SDGsの達成に積極的に取り組んでいる。その手法を紹介する。



## ゴルフ業界にも広がるSDGs

2015年9月、ニューヨークの国連本部で環境問題と持続可能な開発をテーマにした国際会議が開催された。そこで、全会一致で採択されたのが「持続可能な開発のための2030アジェンダ」である。

このアジェンダには2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すための17項目の国際目標が掲げられている。これがSDGs (Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)だ。

17の目標は貧困や教育、ジェンダー平等などの社会面やエネルギーの有効活用、働き方の改善などの経済面、さらには環境問題と多岐にわたっている。目標を達成し、よりよい未来を築くためには国単位での取り組みはもちろんのこと各企業や団体、さらには1人ひとりがしっかりと考えて行動することが大事。近年は日本でもSDGsに積極的に取り組む企業や団体が増えてきた。



ゴルフ業界にもSDGsの輪が広がつつある。六甲国際ゴルフ倶楽部では昨年6月に木質チップを燃料としたバイオマスボイラーを導入。コース内の間伐材を燃料として有効活用するほか、経費や二酸化炭素排出量の削減などさまざまな効果を生み出している。

SDGsへの取り組みのキーマンといえるのが常務取締役の加藤敏氏である。加藤常務は六甲国際GC創業者の孫という立場。大学では環境系の学部で在籍するなど、もともと環境問題への関心が高かった。

「自社として何かSDGsに貢献できることはないか」と考えていた時、交換時期を迎えていた重油ボイラーに換えてバイオマスボイラーを導入する案が浮上ってきた。提案したのは再生可能エネルギー開発などを手掛けるシン・エナジー株式会社だった。



六甲国際GCに設置されているバイオマスボイラー

## 多くのメリットを生んだ バイオマスボイラー導入

六甲国際GCでは年間200～300本の間伐材が出る。これまで、間伐材は産業廃棄物として処分していた。この間伐材を兵庫県内の燃料加工工場に木質チップに加工してバイオマスボイラーの燃料として再利用する。文字通りの地産地消を実現できる提案を採用した。

バイオマスボイラーには限りある資源である化石燃料を再生可能な燃料に置き換えられるという象徴的なメリットがある。原料を遠く海外から輸入しなければならない重油とは異なり燃料を地元で賄えるということもSDGsに合致する。

それ以外にも多くのメリットがある。ひとつは経費削減だ。

重油の場合、六甲国際GCでは年間約6万リットルが必要だった。金額に換算すると2019年度実績で約490万円。その後、原油価格の高騰があつて重油代は膨れ上がっていた。

木質チップならば年間約100万円ですむ。燃料費は2019年度比で約390万円も削減できたことになる。原油価格高騰後の現実的な削減額はさらに大きいと考えられる。

これに加えて伐採と処分にかかっていた費用もスリム化された。

以前、伐採は剪定を任せている造園業者に依頼していた。処分するのは産業廃棄物の業者。2つの業者が関わる形だった。

現在は林業の業者が伐採してコース内の空き地に一時集積し、燃料加工工場に運ぶまでの作業を一手に引き受けている。

バイオマスボイラーは煙がほぼ出ない。さらに、重油ボイラーと比べて二酸化炭素排出量を年間約220トン削減することができる。

また、重油ボイラーでは営業終了時にいったん止めて、朝、再び火を入れる作業を毎日行っており、そのためボイラー技士も必要だった。バイオマスボイラーは全自動で24時間稼働しており、遠隔監視も可能。人的負担も軽減された。

六甲国際GCが設置したバイオマスボイラーは欧州のオーストリア製。費用は約1億円かかる。割高感はあるが、環境省などからの補助金を受けることができるため負担はそれほど大きくならない。

デメリットがあるとすれば設置スペースの確保だ。六甲国際GCが導入したボイラーの場合、木質チップのサイロと合わせて約70㎡が必要になる。

木質チップは重油に比べてかさが増す。同じ熱量をつくりだすための体積は重油の約9倍。そのため、保管するサイロはどうしても大きくなってしまふ。ただ、それを差し引いてもメリットのほうが大きいのではないだろうか。



場内の木々がエネルギーとして生活の中で活用されるまで



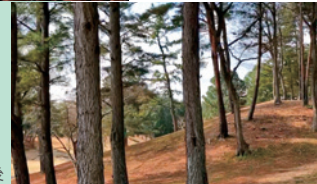
※1: 投入される木質チップは全てゴルフ場の木々から生まれたものではなく、兵庫県で製造された木質チップも含まれます。



シン・エナジー(株) 代表取締役社長 乾正博氏(左)  
六甲国際ゴルフ倶楽部 常務取締役 加藤敏氏(右)



間伐前



間伐後



駐車場スペースを有効活用した太陽光発電

六甲国際GCではバイオマスボイラー導入と同時に太陽光発電にも取り組み始めた。現在、管理車両用の駐車場に7基のカーポート型太陽光発電設備を設置している。1基あたり車4台分のスペースだ。

これで、ゴルフ場が使用する電力の7%をカバーし、年間約40トンの二酸化炭素排出量削減にも貢献している。

加藤常務は「かつてゴルフ場は環境破壊の権化のようなイメージを持たれていました。うちは家業がゴルフ場経営ですから、そんな悪いイメージを変えたいという思いがずっとありました」と話す。長年抱いていた思いがバイオマスボイラーや太陽光発電の導入で実現へと向かっている。

成功事例が新たなSDGsの輪を広げる

バイオマスボイラー設置後、各地のゴルフ場から見学にやってくるようになったという。それだけ、ゴルフ場関係者のSDGsへの関心が高まっているということだろう。

「私たちがバイオマスボイラーを導入したことがきっかけになって全国的にこのようなSDGs活動が業界全体に広がっていけば、ゴルフ場のイメージも変わっていくかもしれません」と加藤常務は期待する。

導入を提案したシン・エナジー社の乾正博社長は「バイオマスボイラーの導入数が増えれば工事費などにかかるコストが下がっていくことが期待できます。ゴルフ場への導入は初めてですから、まずは六甲国際さんでエラーはないか、どのようにすればメリットが大きくなるのかなど色々検証しながらいい形をつくっていきたい」と話す。

刈った芝を燃料に加工できないか、少量ながら出る燃焼灰を肥料に活用できないかなど、トライすることはたくさんある。

ゴルフ場は年数を重ねるほど木々が成長していくものだ。立派に育てば風格が出るという利点はあるだろうが、弊害もある。大きく育てば枝葉が密集して日当たりや風通しが悪くなり、芝の育成に悪影響を及ぼすのである。

近年、歴史の長いゴルフ場では育ち過ぎたコース内の木々を伐採して日当たりを取り戻そうとする動きが広がっている。

開場から50年近く経つ六甲国際GCでも一昨年あたりから同様の作業を進めている。実際にコース内を回ると、切り株があちこちに点在している。

①重油ボイラーからバイオマスボイラーに転換し場内温浴施設に熱供給

ボイラー機器	従来	現在	特徴
	重油ボイラー	バイオマスボイラー	
燃料	重油	木質チップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ゴルフ場内の間伐材を有効利用</li> <li>・産業廃棄物として処分していた間伐材をバイオマス資源として有効利用</li> <li>・海外輸入の重油→地元で加工された木質燃料へ</li> <li>※市場高騰しにくい、安定的に供給可能な木質燃料に転換</li> <li>■脱炭素効果</li> <li>・年間CO2削減量：約220t</li> </ul>
年間使用量	約60,000L	約170t	
年間使用額	約490万円	約100万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>■燃料代</li> <li>・年間約390万円の削減を実現</li> </ul>
燃料体積	-	重油の9倍	
単価	80円/L	5~15円/kg	
年間熱量	約2,254,800MJ	約2,254,800MJ	
伐採業者	造園業者と産業廃棄物業者の2社	林業業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■伐採費用のスリム化</li> <li>・林業業者が伐採してコース内の空き地に一時集積し、燃料加工工場への運搬を担う</li> </ul>
オペレーション	ボイラー技士による営業終了時の消火と早朝時の点火	全自動+遠隔監視	<ul style="list-style-type: none"> <li>■人的負担の軽減</li> <li>・燃料投入後は全自動で出力を管理</li> <li>・スマートフォン等で、遠隔で稼働状況の確認が可能</li> </ul>

②駐車場スペースを有効活用した太陽光発電で電力の自家消費を実現

電力	従来	現在	特徴
	系統から購入	一部をカーポート型太陽光発電に代替	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴルフ場が使用する電力の7%をカバー</li> <li>・年間CO2削減量：約40t</li> </ul>

伐採したことで、冬場でもグリーンに霜がおりることが激減したという効果もあった。さらに、「伐採をして日当たりや風通しが良くなって芝のコンディションを改善できれば、農薬などの使用量も減らすことができます」と加藤常務は言う。これもまたSDGsへの貢献になっている。

豊かな自然と未来を守る  
ゴルフ場の役割

そもそも、ゴルフ場そのものがSDGsとの親和性が高い存在だといえる。

放置されたままの森林と、里山やゴルフ場のような人の手で整備された場所を比べた場合、後者のほうが環境保全に役立っているという研究結果がある。大気浄化機能がその一例。手つかずの森林は一見、自然そのもののように感じられるかもしれないが、実際は日当たりが悪く、二酸化炭素の吸収と酸素の発生による大気浄化の効率があまり高くないのである。手入れされた里山やゴルフ場のほうが効率よく光合成ができるため、二酸化炭素吸収と酸素発生能力が高く、大気浄化に貢献しているというわけだ。

ゴルフ場はヒートアイランド現象を抑える効果もあると言われ、健全な生物多様性を維持している場所でも

ある。実際、クロメダカなどの絶滅危惧種が生息している例も報告されている。

このようなゴルフ場がもともと備えているポテンシャルは再生可能エネルギーを活用することでさらに高めることができるのではないだろうか。

冒頭で記したようにSDGsはエネルギーや環境問題に限らず、教育やジェンダー平等など多岐にわたる項目がある。六甲国際GCでもバイオマスボイラー導入などのほか、ジュニア教育プログラムの採用や副支配人に女性を登用するなど多方面で持続可能な目標達成に取り組んでいる。

「さまざまな企業がSDGsを掲げている中でゴルフ場は少し出遅れているように感じています。ゴルフ場も企業である限り持続可能というキーワードはとても大事。雇用を守るとか、地元のシンボルになるといったことは長く続けていかないとできないことだと思います。六甲国際はもうすぐ50周年ですが、その先の50年を目指し、持続可能というキーワードをベースにした考えで行動していきたいと考えています」(加藤常務)

ゴルフの未来、地球の未来を豊かにするため、今、我々は何をすべきなのか。六甲国際GCの取り組みは、ひとつのモデルケースになり得るのではないだろうか。



# データでひも解く95年ぶりの快挙 アマチュア 日本オープン制覇の 流れはできていた

アマチュア選手が日本オープンを制する。昨年、大学4年生の蟬川泰果が成し遂げた快挙はゴルフ界に衝撃を与えた。だが、これは単なる偶然の出来事ではない。長い大会史からデータをひも解くと、アマチュア選手がしっかりと実績を重ね、優勝への流れをつくっていたことが分かる。



ゴルフドム1927年6月号に掲載された記事には、「赤星六郎氏優勝す」と伝えられている

## 長く続いたアマチュア苦難の時代を 打ち破った丸山茂樹

戦後、日本オープンが1950年に再開された。その翌年、R・E・ハリスという米国アマチュア選手が4位に入っている。当時は日本に進駐していた米軍の兵士が何人か出場しており、ハリスもその一員だった。

ただ、日本人アマチュアは戦後、長くトップ10に食い込むことができなかった。日本アマ最多の6勝を誇り、1967年の西日本オープンでプロを抑えて優勝している中部銀次郎ですら一度もトップ10の壁を破ることができなかったのだ。

高かった壁ようやく風穴を開けたのが丸山茂樹だった。1991年、当時大学4年だった丸山は4打差7位で迎えた最終日に3連続バーディを奪うなど一時は首位に立った。「赤星六郎以来」の偉業すら狙える勢いだったのだ。終盤崩れてしまったが10位でフィニッシュする。40年ぶり、日本選手に限れば実に52年ぶりのトップ10入りだった。

2年後の1993年には大学3年の片山晋呉が3位に食い込んだ。7位から最終日に順位を上げてのフィニッシュだった。アマチュアが3位以内に入るのは第2回大会3位の赤星四郎以来、65年ぶりの出来事だった。

丸山が穿った穴を次々に登場する若い力が少しずつ広げていく。片山の次は宮里優作だ。2001年、7位に入ってみせた。

2010年には松山英樹が続く。当時のアマチュア記録を大幅に塗り替える274ストロークで3打差の3位。最終日、一時は1打差にまで迫っていた。

翌2011年には台湾の洪健堯が10位となり、2012年には大学3年になった松山が2度目のトップ10となる7位に入る。強風が吹き荒れた最終日に出した70は、この日のベストスコアタイだった。

アマチュアが活躍する度にメディア等で赤星六郎の名が登場した。「赤星六郎以来」というフレーズの使用回数は年を追うごとに多くなっていった。それは、アマチュアの実力が高まっていることの証明でもあった。

## 第1回日本オープンの アマチュア優勝は必然だった

第1回大会の赤星六郎以来95年ぶりの快挙—蟬川泰果の日本オープン制覇はそう報じられていた。

日本オープンの歴史を語る上で欠かすことのできない存在である赤星六郎。昨年まで大会史上、唯一無二だったアマチュアチャンピオンが生まれた第1回大会はどのようなものだったのか。

JGAが組織されたのが1924年。当時の規約の中に「日本オープン選手権競技会」の開催が謳われていた。開催が実現したのは3年後の1927年、和暦では昭和2年のことである。

会場は神奈川県程ヶ谷カントリー倶楽部。プロ5人、アマチュア12人の計17人が参加した。

日本で初めての72ホールストロークプレー競技だった。1日36ホールで2日間。初日を終えて首位から19ストローク差以内の選手が最終日に進める決まりだった。

最終日に残ったのはプロが浅見緑蔵、宮本留吉、中上数一、安田幸吉の4人、アマチュアが赤星六郎、赤星四郎、川崎肇の3人、計7人だった。首位は152ストロークの赤星六郎。2位の浅見に6打差をつけていた。

最終日も赤星六郎のプレーは揺るがず、通算309

ストローク、2位の浅見に10打もの大差をつけて初代チャンピオンに輝いた。

戦前のゴルフ誌『ゴルフドム』は「日本最初のオープンチャンピオンとしての名誉は正に属すべき人に属したもので、何人も異存のないところである」という内容の記事を掲載している。赤星六郎は米国留学中にゴルフの腕を磨き、彼の地で大きな競技会を制している。帰国後は誕生したばかりの国内のプロゴルファーたちの指南役になった。当時のプロからすれば仰ぎ見るような存在だったのだ。その実力どおりに勝ったというわけである。ほかのアマチュアは赤星四郎が4位、川崎が7位という結果だった。

赤星六郎は翌年の第2回大会には出場していない。この年のアマチュア最上位は赤星四郎の3位だった。続く第3回大会には赤星六郎も参戦したが4位に終わっている。プロが場数を踏んでレベルを上げてきたのである。

日本オープンにおいて、アマチュアのトップ10は計27回記録されている。うち半数以上にあたる15回は戦前のもの。赤星兄弟や川崎のほか、高畑誠一や鍋島直泰らが10位以内に入っている。

ただ、年を追うごとにプロの層は厚みを増し、アマチュアが上位に入る頻度は下がっていった。



第1回日本オープン優勝の赤星六郎





日本代表選手を指導するガレス・ジョーンズ氏(左から2人目)

男子ツアー全体に視野を広げれば、2007年に当時15歳の石川遼が優勝し、2011年には松山もアマチュアで勝った。アマチュアでありながらプロのトーナメントで勝つということは夢の世界ではなく現実的な目標へと変わりつつあった。

そして2015年、JGAが放った一手がその流れを加速させていく。

### ナショナルチーム改革でアマチュアのレベルがさらに高まった

2015年、JGAはナショナルチームのヘッドコーチ(HC)にオーストラリアナショナルチームコーチであるガレス・ジョーンズ氏を招へいした。最先端のプログラムでナショナルチームを強化し、世界と伍して戦える選手を育てるため、かつてない大きな改革だった。

就任してすぐ、ノムラカップアジア太平洋アマチュアチーム選手権で日本は26年ぶりの優勝を飾って早くも結果を出した。

ジョーンズHCが就任した時、女子ナショナルチームには畑岡奈紗がいた。強化プログラムで成長した畑岡は2016年、高校3年で日本女子オープンを開制した。日本女子オープンでアマチュアが勝つのは初めてのことだった。

畑岡に刺激されたかのように翌2017年には男子ナショナルチームの金谷拓実が日本オープンで躍動した。5打差ながら2位で最終日を迎え、首位の池田勇太と最終組で激突。惜しくも2位のまま終了したが前年の賞金王を1打差にまで追い詰めた。

2020年の日本オープンではアマチュアが上位にひしめく展開となった。2日目を終えて河本力が首位に立ち、4人が並んだ1打差2位の中にはナショナルチームの桂川有人と杉原大河が名を連ねたのだ。

最終的には河本と杉原が5位。トップ10に複数のアマチュアが入るのは81年ぶりのことだった。

2010年日本オープン 3位の松山英樹



2017年日本オープン、「赤星六郎以来」にあと一歩まで迫ったアマチュア時代の金谷拓実(右)

2016年日本女子オープンをアマチュアで制した畑岡奈紗



最終ホールのセカンドショットを放つ畑川泰果、彼に続くアマチュアの登場が期待される



最終ホールを終え、笑顔がこぼれる畑川泰果

日本オープン以外でも2019年に金谷、2021年には中島啓太というナショナルチーム在籍中の面々が相次いで男子ツアーで優勝。いつアマチュアの日本オープンチャンピオンが誕生してもおかしくない流れが出来上がっていた。そして2022年、畑川がその流れをつかみ取った。

畑川もまたナショナルチームの一員である。

2022年4月、関西オープンに出場した畑川は2日目を終えて単独首位に立った。3日目は73で4打差3位に後退。それでも最終日最終組でプレーする機会を得た。

結果的には77と崩れてローアマチュアも逃したが、この経験が後に生きたことは間違いない。

6月にはABEMAツアー(男子下部ツアー)で優勝する。2打差4位から63をマークしての逆転勝利だった。

8月末から9月にかけて、畑川はアイゼンハワートロフィー世界アマチュアチーム選手権に日本代表として出場した。3日目を終えて日本は1打差2位。畑川は個人1位の成績でチームをけん引。18大会ぶり(38年ぶり)2度目の世界一が手の届きそうなところにあった。最終日は畑川もチームメイトも苦戦して日本は7位(畑川は個人2位)。それでも、近年にない好成績だった。

9月下旬、畑川はパナソニックオープンで史上6人目の男子ツアーアマチュア優勝を果たした。3日目に61を叩き出して首位に並び、最終日は終盤の5連続バーディで抜け出して並み居るプロに競り勝った。

悔し涙に暮れた関西オープンからの一連の流れが大きな結果につながったわけだ。そして、この勢いのまま日本オープンを迎えたのである。

日本オープンでの快挙(詳細は14ページの競技報告に掲載)は歴史の流れと畑川自身の流れ、個の才能と組織的な育成が見事に融合して生まれたものではないだろうか。

2022年日本オープンはもうひとつ忘れてはいけないことがある。同じくナショナルチーム一員である杉浦悠太が3位に食い込んだことだ。87回に及ぶ日本オープンの歴史で3位以内に2人のアマチュアが名を連ねたのは初めてのことだった。アマチュアの層は、そこまで厚くなっているのである。

幾度となく使われてきた「赤星六郎以来」という枕詞は眠りに就いた。今年から日本オープンで優勝のチャンスを迎えたアマチュアは「畑川泰果に次ぐ」という文脈で語られることになる。そして、この文言がそう遠くない未来に更新される可能性は決して低くはないはずだ。